

50 林谷五郎《七宝菊花形置時計》

一点

昭和三年（一九二八）七宝
径五一・〇、高四九・〇

菊を主要モチーフにして、桐や橘、雲気文などを有線七宝で表し、鳳凰の耳飾を付けたユニークな形状の大型置時計。昭和三年（一九二八）の大札に際して、愛知県知事・小幡豊治より献上された。デザインを愛知県工業試験所の長沢基、七宝は海部郡七宝村の林谷五郎、時計は服部時計店が担当した。林は大正期から昭和前期にかけて活動した尾張七宝の名工である。



51 安藤七宝店《七宝梅文硯箱》

一点

昭和前期 七宝
二三・五×一〇・〇×四・〇

本作は硯箱であるが、銅板を打ち出して文様を表した部分に七宝をほどこす、鑢起七宝と呼ばれる技法で制作されている。名古屋の安藤七宝店による制作で、昭和十年（一九三五）に北白川宮房子妃（明治天皇第七皇女子、周宮）から秩父宮雍仁親王へ贈られたという伝来がある。エッジを効かせた正統派アール・デコというよりは、梅の花に差されたピンク色の七宝釉に当時のモダンな少女趣味を思わせる作風である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s モダン・エイジ — 光と影の造型美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 70

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年九月十二日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan